

ICTの活用による効果

全ての生徒に発表の機会を

これまでの授業では、生徒に意見や感想を求める場合、挙手で指名して発表させていた。これでは、時間の関係で数名しか発表できなかった。

今回の発表チャットの利用では、チャットを使って意見を書き込むことで、教室の前にあるプロジェクタから表示され、全員が意見発表をすることができる。



⇒これによって、全ての生徒が必ず意見を考える必要があり、どの生徒にも自分の意見が見てもらえる意識が芽生える。

多様な意見に触れられる

これまでの授業で数名に意見を発表させる場合は、意見の種類が限定されてしまう（もしかしたら良い意見が取り上げられていないかもしれない）。

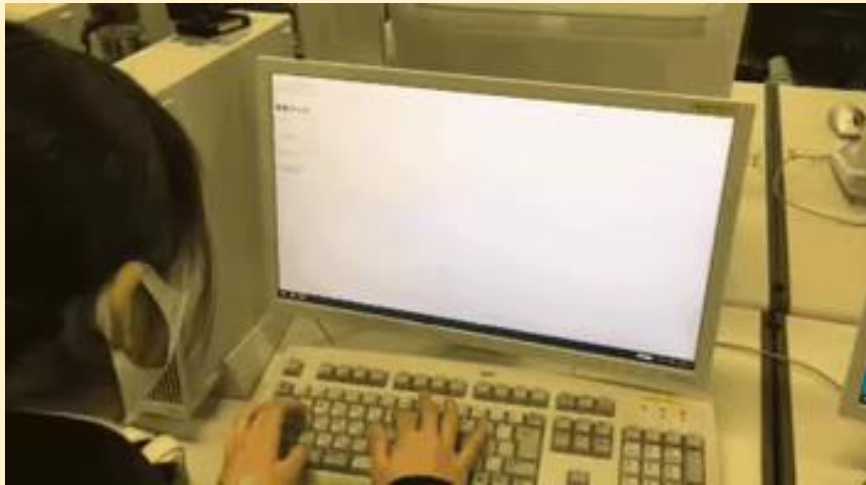
今回の発表チャットを利用することで、教師を含めクラスの生徒が全ての意見に目を通すことができ、そこから必要な意見を抜粋することができる。




⇒これによって、多様な意見から必要な内容を見いだす力が養われる。

お掃除ロボットの動きを考える

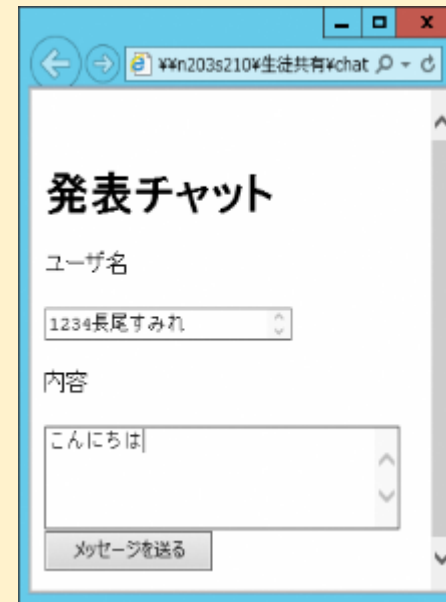
- ① (題材:情報の技術) お掃除ロボットの動画を見る
- ↓
- ② どんな動きをしていたかを「発表チャット」で意見集約
- ↓
- ③ 教師がコメントし, 重要な意見を抜粋
- ↓
- ④ 各自が感想をプリントにまとめる



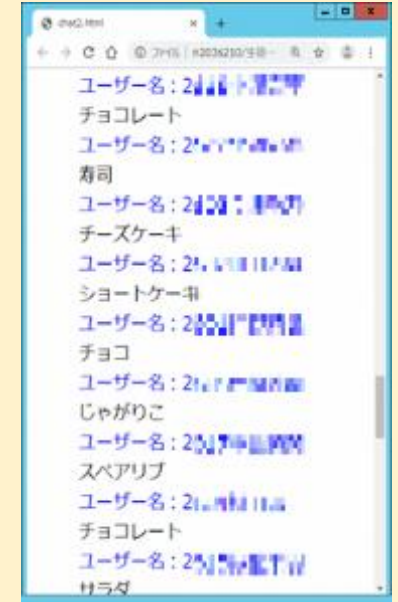
 授業風景動画 (約30秒)

使用したシステム

今回は, Firebase (Google社) というネット上に簡単なデータベース作るサービスをブラウザから利用した。1人1台の端末が導入されればTeams等の学習支援サービスから簡単にチャット形式の発表が教室で利用できることとなる。



生徒用投稿画面



教師用提示画面

生徒がユーザー名と内容を入力して「メッセージを送る」ボタンを押すと、教師用の画面に表示される。

学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成を行う

- 1年生では、パソコンのワープロソフト(Microsoft:ワード)を使って、文字の入力方法や画像の貼り付けなど、文章処理の方法を学んだ。
- 2年生では、プレゼンテーションソフトを(Microsoft:パワーポイント)を使って、47都道府県をアピールをする「観光大使」という立場でそれぞれインターネットで調べて、スライドにまとめる。また、使い方を習得した後、「トライやる・ウィーク」の事後の実践発表に活用した。(昨年度)
- 3年生では、修学旅行のまとめ学習として、ワープロソフトを用いた。また、表計算ソフト(Microsoft:エクセル)を用いて名簿や関数を用いた計算などを学習した。



<第2学年 プレゼンテーションソフトの活用>

ICT活用のポイント

自分の調べた成果をスライドで発表をさせる。前に立つと照れる生徒もいるが、時間制限いっぱい発表させる。各自で、自他の採点を行い、いいところ・改善点などをお互いに発表させる。



ICT機器を活用した英語の授業風景(動画約15秒)



技術科: 作業手順を解説する動画(約20秒)

ICT活用のポイント

導入時に、どのようなところで活用されているかを教えておくと、授業に取り組みやすくなる。また、例題や問題を提示した際に、よくする失敗例を見せておくと質問等が格段に減る。



表計算ソフトの活用